

会 議 録

件 名	隅田中学校区地域説明会・意見交換会（第2回）
日 時	令和7年2月18日（火）午後7時00分から午後9時00分まで
場 所	東部コミュニティセンター
参加者	参加者 11名 今田教育長、吉田委員、田中委員、簗下委員、岡教育部長、阪口参事、 丸山教育総務課長、長谷川生涯学習課長、東学校再編推進係長、東川、中山

教育長挨拶、資料説明の後、質疑応答、意見交換になりました。

なお、出席した保護者には、資料と合わせて、意見等を記入できる二次元コードを用意しました。欠席した保護者にも二次元コードにて、資料を閲覧、意見等を記入できるよう準備しました。

本説明で出された意見等は、以下のとおりです。

1. まず、質問です。8ページの目指す子供像で「未来を創造し、たくましく生きる」これいいと思うんですけども、外れる子供も必ずいます。そういう子の対策はどうされるのか、これ1つ目。基本方針の中で、多様な学習形態で学びということはあるんですけども、大変いいことだと思うんです。実際問題、私立中学校または、橋本高校に併設されてる中学校へ行かれる方とか、4年5年になったら必ず塾へ行きます。また私立中学校の受験体制に問題あるかと思うんですけども、普通の学校の授業では問題さえ解けないと、わからない問題がでますんで、塾へ行かないとどうしようもないことがあります。そんなことで、こういう方針で大丈夫なんかという思いがあります。それと、あんまり沢山言ってもあれなんですけども、安全面で、本当に市長とか、こう言ったら失礼なんですけど、教育長とか中学校の3時から4時過ぎ、校門の前の状態を把握してはるんかなと、これ実際見て欲しいなと思います。あのとき、5時ぐらいになると橋本方面から恋野方面へ曲がる右折車両がたくさん渋滞するんです。あの国道のどこ、これは完全に整備されてないんで、もうすごい危ないんです。それも今の実際の現状を見て欲しいと思います。これ、教育委員会だけでは決められないことだと思うんですけども、私が心配するのは、スクールバスに乗って普通に変えられたらいいんですけども、必ず4年5年6年になったら、父兄の方が迎えに来られて塾にそのまま行くことも出てきます。また、どこかで待ち合わせしとったら、そこまで歩いていくとかいうことも出てくると思うんで、ぜひ、そういうのも実際に見ていただいて現状を把握して欲しいと思います。

（教育長）

ありがとうございます。目標を立てれば、必ずみんなそれをクリアすることができるのか。1点目のご質問だったと思います。ここに書いてあるのは「未来を創造し、たくましく生き

る」抽象的な表現ですけれども、具体的に言いますと、その下にある枠の中で書いてるような力をつけていくということです。子供たちの発達というのは、一人一人違いがあります。けれども、共通したものがあります。それは何かといいますと、一人一人確実にステップアップしていく、少しずつ成長していく、一足飛びには成長しないということです。それを目標を持って促していくのが教育の中で大切なことだと思っています。ですから、目標立ててそこへ近づけるための子供たちのステップを着実につけていくような取組をしていくこと、それが私たちの役目であると考えています。

それと2つ目、学校で習えへんようなことも必要になってくるんじゃないかというようなお話だったと思いますが、公立の学校で基準にしているのは学習指導要領です。学習指導要領に書いてることで子供たちに力をつけていく。それが私たちの役目となっています。私学などの試験に出てくる内容というのは、基本的にはその学習指導要領の範囲の中で出されていると思うんですけれども、それを、どう使うかという工夫がなければ、なかなか解きにくい問題があると思うんです。ですから、私たちは学習指導要領に則り、子供たちに力をつけていく。これも先ほどの発達のことと同じなんですけれども、そのあたりはしっかりと示されてるものの力つけていくような実践をしていくこと、それが大事であると思っています。そのためにも、私たちの世代が学んできたやり方では、これから目指す力というのはついていかない。そのために、先ほどの説明にもあったような学びの転換を図りつつ、これから求められる力をつけていくための、指導方法なんかも先生方としっかり研究していきたいと思っています。昔は、学校は学校だけで勉強しとったらよかった、知識を伝えることは、主な役割だったからです。けれども今それでは駄目です。学校だけではなく地域の方々にも協力いただきながら、具体的に地域課題を一緒に考えたり、それを実際に行動に移したり、することによって、社会貢献にまでつなげていくような体験をしていくような、そんな学びも展開しているところです。これからの力をつけていくためには、一定の集団を確保しながら、子供たちと話し合いをして、そして、新しい価値を生み出していくようなそんな学びをこれからやっていきたいと思っています。そのための学校再編、これは私たちの目指している新たな学校、新たなと言っているのかどうかはわかりませんが、これから目指さなければならない学校像かなと思っています。

あと、今の交通状況の実際を見て欲しいという話でした。これについては、私たちも見に行っただことはございます。やっぱ課題があるところはわかっています。これまでも道を広げる取組をされている部分があるんですけれども、まだ、完全に解決しているところではないと認識しているところです。この辺りについては、以前、地域の方々にも協力いただき、学校とまた行政もタイアップしながら、県へ要望を出したりもしているところです。そういったことで、改善が図られるようにしていくとともに、実際にこれから、もしも、このまま計画に従って学校再編を進めていくなれば、そんなに期間はありません。その中ですべてが解決できないかもわかりませんが、しっかり取り組まなければならないところについては、現状もう一度、見た上で、その辺りをしっかり取り組んでいきたいと思っています。

2. 昨年、恋野地区公民館で平木市長のタウンミーティングが行われたんですけども、その中のお話として、学校再編を進めていると、ただ、杓子定規、画一的に統廃合を進めていくのではなく、例えば、そのときにお話しされたかと思うんですけども、橋本市において、きのくに子どもの村学園というような、不登校の子を他府県から受け入れてというところも触れられていて、そういう学校があるのであれば、市として、そういうような学校づくりをどこかの学校に担わして、そういう子供たちを受入れる学校づくりも1つの案として検討していくべきであるというお話に触れられてたと私は認識してるんです。この統廃合案に関してなんですけども、いろんな学校が今後、統廃合されていくかと思えますけども、具体的にこの学校の中で、そういった特性を持たせるような、そういう役割を担う学校づくりを、何かしらご検討されているのかを聞かせていただきたいのが1点あります。もう1点なんですけども、恋野小学校というのはデータでもありますように、とても人数の少ない学校になりますし、そういったことが進められていく中では、まず一番対象になる学校になると、私自身も思うんですけども、ただ、恋野に住んで、こんなこと言うのもなんですけども、人数少ない割には、社会で活躍している大人の方が多々おられると思うんですね。これ人数で言ったら、かなりの割合じゃないのかなと思っております。それはやっぱり、恋野の地域性っていうか、地域全体が子供を見守り、学校に関わる、地域全体で子供を育ててきた、恋野小学校の学区の特性が生み出したものだとも認識しています。であるからこそ、もしそういった役割を担う学校づくりを、どこかの学校に見合わせていくのであれば、恋野小学校というのは、すごくその可能性のある学校だと思ってますし、その点に触れられたこの間のタウンミーティングにおいては、恋野小学校の存続という点に関して、すごく私自身は個人的に希望を見いだせたかなっていう思いです。その2点、意見としてお伝えさせていただきます。

(教育長)

ありがとうございます。一言で言うと、特色ある学校をどう作っていくのかっていう言い方もできるかなと思ひながら聞かせてもらいました。ご意見をいただいた学校というのは、すごく魅力ある学校だと思います。私たちが目指している学校もそういう学校なんです。地域の人達に本当に支えられながら、子供たちの教育に関わってくださる方の多い地域、そんな地域の中にある学校として、すべての学校がそういう学校にしていきたいのが私の思いです。なかなか特性があって、学校へ行きづらい、そんな子供さんもおるのも現状です。橋本市としての課題の1つです。これは、1つの学校がそういうのを担うのではなく、それぞれの学校においてそういうことを担っていけるような役割を、今後どう作り出していくかという視点を私は持っております。今、インクルーシブの時代だと言われる中で、やっぱりそういった子供さんのこともしっかり受けとめながら、みんなで学んで行ける雰囲気づくりは絶対大事なことだと思っておるところです。

それと、恋野小学校の良さっていうのを、2点目もお話しいただいたと思うんですけども、これも今の話に通ずるところあるんですけども、やっぱり先ほどの方の質問にもお答

えさせてもらったんですけれども、学校は学校だけで子供を育てる時代ではなく、やっぱりいろいろな方に支えられていながら、子供たちの地域に愛着を持ち、そんな思いを持って自分の自己実現につなげられるような、教育活動が展開できるような学校づくりをしていきたいと思っております。それが少しエリアが広がったとしても、それが持続できるように、取り組んでる共育コミュニティの活動であったり、学校運営協議会の活動であったり、合同の取組であったり、そんなのも大事にしながら、今後とも学校づくりに努めていきたいと思っております。言っていただいた学校のあり方は、まさに私たちが目指している学校であり、その中でも、多様な学びが展開できるためには、子供たちの一定の集団は確保していく必要があると思います。そうなったときに、今の言っていただいたような学校運営ができるように、今後とも今の取組を充実させていきたいと思っております。

3. 初めて来ました。非常にわかりやすい文章で見さしていただいております。山内小学校がもともとあったのが、20年程前に隅田小学校に合併によって、スクールバスで通えるようになって、現在、山内から通学してる子供たちは、非常に少なくなっております。山内から行かせてもらっている隅田小学校は、再編の対象じゃないみたいですが、だんだんと、今の条件見てみますと、あと5年ぐらいたったら山内の子供たちなくなるんじゃないかなというような状況なんですね。だから、やっぱりこういうのは、例えば、4年後を目指していらっしゃるんですけど、再編につきまして、学校がなくなったら地域は本当に何か崩壊するんじゃないかなというような思いをしてるんですけども、そこあたりはもう教育委員会さんが今回は主体でお話されておられるんですけども、行政として、なんとかして止めていただくようなことできませんでしょうか。これだけ本当に、非常にちょっと悲しい思いでいるんで、子供たちがいないというのは。だから、再編と関係ないかもわかりませんが、先生方が地域と学校が一緒になって育てると、なるほどよくおっしゃってるんですが、実際にどうなんだというところがあるんです。その中で1つ思いなのですが、昨年までは、子供たちが2時30分になりましたら、これから帰りますという放送がございましたよね。それがなくなってしまったんですね。各家庭へのラジオからは、同じ放送はされるんですけども、私たちは外でおりますからね。そういうのだけでもね、なんかちょっと悲しくなってくるんです。子供たちが放送で、これから帰りますから地域の皆さんよろしくお願いしますねと、毎日やってくれてたんですよ。それがなかったら、時間がわからないし、子供たちは何時のバスで帰ってくるのかわからないですよ。そこらあたりも教育委員会の方から、行政の方に伝えていただいて、地域と学校、学校と児童生徒がセットになるように考えていただくことできませんでしょうか。よろしくお願いいたします。

(教育委員会)

ご意見ありがとうございます。ちょっと前後するかもしれませんがお答えさせていただきます。まず一番最後の防災行政無線のことなんですけど、防災行政無線の管理を考えたときに、かかるコストとそれから災害のときに聞こえないという実情を改善するために、

危機管理室が、ラジオタイプで自宅に置くものということに方針転換をされました。おっしゃられたように、2時半のチャイムや5時のチャイムは、夏の間に子供たちが遊びに行って、帰りよという合図になってたんで、あれがなくなることに対する意見はかなりありました。しかし、災害のときに聞こえないところを改善しようと思えば、ご自宅で電池を入れてもらうんですけども、防災を主として考えるときに、屋外子局から戸別受信機の方に切り換えたという方針になっています。それから、学校がなくなったら地域が寂れるんじゃないかというところなんですけども、実は他の場所の説明会でもそういったご意見がございました。特に学校が地域からなくなったら、徒歩圏内で、新しい所帯を持って子供を通わす世帯はもう入ってこなくなるという意見があったんですけど、そこはもう、避けられないと思います。やはり、学校との距離を若い世帯は考えて不動産を購入されると思うので、それはあるかと思うんです。今おっしゃられた中で、教育委員会だけではないことを前提で言ってもらったんですけども、この少子化の減少を食いとめることに関しては、もう限界があると思います。市として、子供の医療費の無償化であったり、子供3人目ができたときに、その保育料や給食費の負担という制度はあるんですけども。この10年間で21%の小学生の数が減っているというところを、施策を打っても良くはならないと思います。ですので、我々としたら一定の学校の規模というのに注目をして、今の施設を残すことが子供たちにとっていいのか。教育環境を保障することの方が子供たちにとっていいのかというところを考えて、今は後者の方で、学校の再編の説明をさせてもらっている状況にございます。

それから、最初の方で、隅田小学校は学校再編にならないというお話があったと思うんですけど、資料15ページです。学校の場所は、隅田小学校で考えさせてもらってるんですけど、恋野小学校を隅田小学校に吸収する考え方ではなく、場所は隅田小学校なんですけど、両方の学校のいいところを持ち合わせて、新しい学校を考えていきたいと思いますというスタンスであります。ですので、隅田小学校で今されている学校カリキュラム、恋野小学校で展開されているカリキュラムのいいところを、場所は隅田小学校なんですけども、学校名も考え直して、校歌も考え直して、帽子等も考えましてというところを統合準備会、地域の方、保護者の方に入っていたいただいたメンバーで、約2年ほどかけて考えていきたいと思いますので、再編ということに関しては対象となっているということで、ご理解いただきたいと思います。貴重なご意見ありがとうございます。

4. 私は県の不登校支援をしていまして、昨年度までは橋本中でいたんですけど、昨年度の春、異動で九度山町の小学校・中学校、河根の3校の不登校支援してるんですけども、河根の小中学校を週に2日行っています。全校22名のうちで地元の子は1人もいてなくて、橋本市内から来てる小学生、中学生の子供さんばかりなんです。河根小学校、中学校は子供さんが1人もいなくなったんで、地元の方が子供の声がしなくなって寂しかったんですけども、子供の声がするようになって、ちょっと明るくなった話も聞きますし、地域の方も運動会や文化祭に来て、花植を子供たちと一緒にしたり、いろいろ地域みんなが、その子供

を育てる形で、何とか九度山町の教育委員会さんが、九度山町に運営していただいて、河根というのが存続してるんです。橋本市から来ていることは、ちょっとびっくりしたんです。橋本市にそんな学校がないからかなと思ったんですけれども、これからまたそういう統合することによって小さい学校が大きいところの方に行くと、どうしてもそういう学校に行きにくい子もできると思うんですよ。そうなったときに、市として何か対策とか考えておられるのかどうか、1つ聞きたいです。私も地元で、そこで恋野小学校の卒業生として、無くなっていくことはやっぱり心寂しくて、もう1桁台になっても学校残して欲しいなというのは、心の中で思ってたんです。それは、やっぱり市の財政とかいろいろな問題があって、こういう話になってることもわかるんですけども、最小限何か恋野のために、何か残せてもらえるような、何かそういう子供たちも、そこで何かができるような形で残していただけたらというのも考えていただきたいなと思うんです。実際、不登校の子供たちと関わってたら、橋本市のいろんなところから来てる子多いんですけども、やっぱりそれぞれの心のうちの悩み持ってそこに来て、先生方とか地域の人たちに癒してもらって、毎日来れない日もあるんですけども、何とか1週間のうち、5日来れてよかったな、3日来れてよかったなというような日々を送ってるんです。だからそういう子供たちもいて、橋本市の子が河根の方にいってるということも、ちょっとまた考えていただきたいなと思いました。お願いします。

(教育長)

ありがとうございます。そういった現実もございます。そういった子供たちの支援をどうしていくのかについては、それぞれの学校で、また教育委員会としては、教育相談センターが中心となって、そういった対策をしているんですけども、受け皿になりきれていない部分もあることはあります。今後、少し変えていく中で、教育支援センターというようなところを設置して、手厚い支援ができるような体制づくり、相談体制について、今後取り組んでいく予定をしているところです。今ここでこんな形にしますというところまではお話できないんですけども、やっぱりそういった子供さんを、どこかできちっと対応していけるように支援していけるような形は作っていかなければならない。また、そうやって行かれてるお子さんもおられますので、そういったところの連携はしっかりとっていかなければならないと思っております。ただ、私たちが、学校に行きにくい子供さんがおられる中で、最後を目指していかないといけないのは、やっぱり最後の自立していく形にどう持っていけるかということです。その出口にどうつなげていくかということについては、現在も教育相談センターが中心となって、高校に行ってからのところについても、しっかりフォローしながら取り組んでいるところで、一定の成果を出してるかなと思っております。けれども今言っていた視点というのは、私たちがまだ、これから少し力を入れていかなあかん部分でもあるという認識を持っておりますので、貴重なご意見ありがとうございます。

5. 資料 22 ページの児童生徒への配慮や統合前の学校間交流についてです。教育委員会の考えとしてここに書いてあるんですが、不安を感じている子がメンタルケアを受けるのは当たり前とするとして、その交流を重ねていく前に、いわゆる体制が強い方というか人数が多い方、不安を感じない方の教育はどんなふうに、誰がされますか。例えば、中学校に行ったときに、恋野小学校は、中学校で3校が合わさったときにすごく体制が弱くなって、最初はいろんなことを言われます。そういうのは弱い方が耐えていく、ケアされる方じゃなくて、強い方が考え方を变えるべきだと思うので、その辺を説明していただきたいと思います。

(教育長)

ありがとうございます。やっぱり、その思いというのはよくわかります。私自身も田舎育ちなので、こういったところへ出てきたとき思ったこと、それは実感としてあります。ですから、本当に日頃からどれだけ交流できるかというところがポイントになるんです。こども園、小学校に入るまでの状況を考えたときに、そこで一緒になっている子供さんが小学校が分かれて、そしてまた中学校で一緒になるというような構図もあったりもします。ですから、全く面識がないという子供さんは、なかにはおるかかわからんのだけれども、小さいときからの面識はある状態でもあるんです。だから、そこをどう生かしていくかということもすごく大事なところと思っています。そして、大勢の学校については、その辺りのことはやっぱり先生方のところで、どういうように子供たちへ投げかけしていくかということについては、しっかり準備期間の中で、先生方とそこは打ち合わせしながらやっていかなければならないと思っています。すでに今年度も、恋野小学校と隅田小学校が一緒になってやる行事というのも計画してくれています。いきなり勉強とかそんなのではなく、交流しやすい内容でやっていってもらっています。時間がありますので、そこは本当に計画的に進めていきたいと思っていますので、貴重なご意見ありがとうございます。

6-1. もう1点お聞きしたいんですけども、資料 17 ページで、令和 12 年度になると、隅田小と恋野小としたとしても203人ということで、1クラス35、6名になるんですけども、最初にありましたように、2学級を目標とするということだと、ほぼ1学級でできるような人数になってしまうと。これ実際何人までは2学級で対応、されるのか、もし1学級になったときに、また再編を考えるのか。これ10年度に再編しても、12年度にはほぼ1学級のクラスばかりになってしまう数字が出てくるんですけども、これは、そのまま何人ぐらいになるまで続けるのかなあと。また再編するのと違うかなってというような不安があるんですけどその辺どうですか。

(教育委員会)

ご意見ありがとうございます。まず人数のことなんですけど、1クラス35名というラインがございまして、36人がいたらクラスが2つに割れる、そういうラインがございまして、望ましい環境として、1学年2クラスと書かせてもらったんですけど、状況によりましては、

そのクラスによっては、1クラスに収まってしまう学年が出てくる可能性がございます。ただ、一定の規模というところを説明させていただいたんですけど、具体的に言いますと資料9ページの左側のイラストを見ていただきましたが、グループ学習であったり、学び合い、そういった形で、子供同士は1つの課題を話し合って、どういったことをしたかということを発表したり、また違うグループの発表を聞いて、自分たちのその考え方が違うところ、いろんなそういう学び合いが、また、ノート型パソコンを使ったりして、授業参観で見ていただいていると思うんですけど展開されています。そういった中で、こういう多様性をクラスの規模に持たせることによって、人数は2クラスに、もしなかったとしても、こういう学習の展開ができると考えています。それから、また再編を見直すというところなんですけども、資料12ページの1学年2学級以上というところの2段目、今後、1学級の学年が生じている学校が、さらに縮小することが見込まれる段階で再編統合の検討を始める、ということもさせてもらっております。1学級のクラス人数が本当に少なくなったときに、今のところ恋野小学校と隅田小学校では、この数字は維持できると思うんですけど、本当に少なくなったときは、また再編という考え方をするという方針も持っているところです。

6－2. 今のお話の中であったんですけれども、1年生で入学した人が6年生までにもう1回ということはぜひやめていただきたい、せめて、それぐらいの期間をあけていただいております。

(教育委員会)

ご説明させていただいております第2期の基本方針は、概ね10年ぐらいを見て考えておるものです。その先については、そのときの人口の状況とかを考えて、また次のものを考えていくことになると思いますので、ご理解をお願いします。

7－1. 先ほどからの10年11年12年の子供たちの人数の状況なんですけども、普通に平均しましたら32名とか35名とかの1学年になるわけなんですけども、昨今、支援学級の対応を受ける子供さんが、肌感覚でちょっと増えているように思うんですね。そうなってくると、その35人をもうすでに割ってるんじゃないかという、学校は統廃合したけれども、現実問題として学校開けてみたら、1クラスの人数が35名よりも少なくなっているところが、始めたときにすでに出てくるんじゃないかなという気もしています。

もしこれが36人であれば、2つに割ってもらえて、10何人、20人弱の2クラスの形になってくると、とてもきめ細やかな対応していただけるクラスの人数になって、ある意味、合併はしたものの、統廃合したものの、ちょっと、日頃の人数の少ない恋野小の子供たちからするといい環境かなとは思っています。それこそ支援学級に抜けてしまった場合、28人9人になって、1クラス、もう精一杯いるような感じになってきたときに、今でしたら補助の先生を入れてくださるような状況が、各学校で行われていますけども、そういうことで補っていくということになるんでしょうか。

(教育長)

ここに書いてある人数は、通常の学級と特別支援学級に在籍しているトータルの数になっていますから、今言っていたような状況が起こるかも知れません。けれども、私の考えとしたら、下の学年であればあるほど、やっぱり丁寧な対応していく、しっかり下の学年のときに学びの習慣だとか、学校でのいろんなルールを学んでいくときに、一定の集団は必要なことはあるんですけれども、多すぎるとやっぱり大変だという部分もあります。ですからそのところは、丁寧な対応ができる体制は、しっかり確保していきたいと思っています。学級の数だけではなくて、学級の人数をしっかり対応できるような、学校の支援は、今もやっておりますけれども、継続してしっかりそこは取り組んでいきたいと思っています。

7-2. ありがとうございます。2つが1つになったときって、すごくいろんな軋轢が生まれたり、子供たちの中でも精神的にしんどい部分とかが絶対出てくると思うので、そこら辺は十分に酌み取った学校運営がなされることを願っております。

8. すいません。1点ちょっと確認させていただきたいんですけども、先ほど教育長が、いわゆる少人数校に適した子供を、1つの学校が特別な役割を担った学校が担っていくのではなく、各学校ごとにそういった子供たちのケアがしっかりできるような学校づくりを目指していくことをおっしゃられてたかと思うんです。ということは、現時点ではそういう1つの学校に、そういう不登校であるとか少人数で学びやすい子供のための学校をどこかの学校に作るような可能性は現時点ではないのか、今後こういったタウンミーティングなどを経て、1つの検討の余地として考えられていくのかを確認させていただきたい。私もこの会に参加して、あまりの人数の少なさに当事者である地域の方がほとんど参加されていないのは、ある意味ちょっとショックであったんですけども、ただ、恋野地区において、12月に、恋野小学校のOB、OG、上から下まで12歳ぐらいの歳の差のある子供たちが自主的に自分たちで呼びかけて集まって、恋野のこれからを考えていく会が催されたんです。次の日曜日も恋野地区公民館において、さらに輪を広げてそういった話をしていこうと、大人が決めたのではなく、子供たち自らが輪を広げていくような会が開催されるんです。その時に、今日のお話し聞かせていただいた内容を子供たちに伝えたいと考えてまして、子供たちもやっぱり、もう少子高齢化は、世の中の流れで、学校がなくなっていくのは仕方ないことなのかなあと。でも、自分たちが何かしらこう踏み出すことによって、地域の活性化であるとか、小学校の存続に向けて、何かしらできることがあるんだったら、その輪を広げていきたい思いは持っていると思います。恋野小学校がだんだん、だんだん元気がなくなってきたのは、少子化の流れだけではなくて、コロナ禍が一番大きかったかなって考えてるんです。コロナですごく分断されたなって、それまでは人数が少ないなりに、すごくその地域と学校の繋がり、他の学校よりも繋がりが強かったんじゃないのかなって。それ

を子供たちがもう一度、繋がりを広げていこうというところなので、何かしら今日のお話で自分たちの取組が、何かしら次の希望に繋がるような可能性があるのかだけでも伝えることができればなと考えてるんで、先ほどお伝えしたその1点、可能性があるのかないのかというところをお願いしたいです。

(教育長)

ありがとうございます。今の現状の中で対応を考えていくということであれば、先ほど話しさせていただいたような方法を充実していくことが大切なことであるという認識のもとにお話さしてもらっています。そういう、特別な学校を作っていく、そういう方針を持ってるのかということなんですが、現時点ではそういった方針は、今のところはありません。ただ、そういう学校を作っていくとするならば、やっぱり私たちだけではなく、地域の方々の理解も必要になってきます。当然、小規模特認校のような制度もあるんですけども、そういった学校をこうしていこうとするならば、その地域の子たちは、その学校へ行ってもらって、そしてプラスアルファ、どこからでも来てもいいよというような形の学校になっていく。だからこれもやっぱり理解をしてもらわないとできていかないというところがあります。ですから、そういった話し合いを現時点では行っていないので、可能性があるのかないのかといったら、ないとは言い切れないんですけども、今のところ方針としては、持っていないのが現状です。

9. 資料28 ページのところに跡地の関係を記載していただいています。その前段、本当によくわかる内容の資料をありがとうございます。それで跡地の関係なんですが、当時学校建設に協力させてもらった一住民といたしまして、記録に残してくれるというんで、この一言を是非とも記載をしておいてもらいたいと思うんですけども、当初、恋野小学校は、赤塚からもっと上の方に行く予定だったんですけども、そしたら、私たちのところも、日当たりもよくなるし、いいなと思ってたんですけども、いや、やっぱりあそこにやってくださいよということで、それも当初、将来的には、僕もある市の方とお話させてもらった中で記憶に残ってるのは、子供さんが、これから少なくなるような中で、3階建ての建物を作ってくれよと。今の皆さん方にはちょっと関係ない話かわかりませんが、本来であれば2階建てにしてくださいよと、大分その折衝もしたんですけども、いろんな予算の関係で3階建てのすごい立派な建物にさせていただいて、今回のようになるならば、跡地をどうしましょうですけども、ただ学校用地として、協力して欲しいということを言われたというのはちょっと記録に置いといてもらいたい。それともう1つ、本当に、ちょっと関係ないかもわかりんですけども、僕いつも感心したのは、交通指導員さんですか、毎月、制服着られて立っていただいています。多分、無償かわかりませんが、本当に貢献していただいていると思うんです。その方々の今後のことについてもどこかのところにとどめておいてください。それぞれ、それらに自分の時間、本当に一番貴重な時間をさいて、支援していただいていると思いますので、その方々のケアというか、その辺のこともちょっとどこかに触

れてもらうというか、よろしく願いいたしたいと思います。

(教育委員会)

昔のこの大事なところを教えていただいて本当にありがとうございます。学校をあそこで建てるから用地を提供してくれたという経緯があったということですよね。承知いたしました。今からスタートじゃなく、過去のことを踏まえて、しばらくあと4年は学校運営しますけども、そういったところを踏まえて地域の方々と活用方法というのを考えていきたいと思います。それから、交通指導員さんには、本当に朝早く、1日、15日を中心に立ってもらってるんですけど、再編となれば、またやってもらう場所とかそういったところが変わる形になりますし、そういったところもお話をしていきたいなと思います。教えていただいてありがとうございます。

10-1. 資料16ページのところで、学校再編基本方針の見直しということが出ました。前回の説明のときに、恋野小学校区、隅田中学校区は、令和9年ですという話で1年延びたからちょっとマシでしょっていう思いがどこかにあるのかもしれませんが、それぞれの事情はあるでしょうけども、紀見東中学校区は9年から14年まで延びます。それは子供が多いからと言うかもしれませんが、ここのこの時間的な差の出方の正直なところ、ここでおっしゃっておいてくれますか。

(教育委員会)

まず、隅田小学校、恋野小学校についてですけども、今日みたいな形で方針の見直し案を進め、ご説明させていただいています。それに伴い計画づくりが先に延びたという形になります。1年延びて令和10年度という形でいうところは、計画が1年延びたという形になっています。橋本中央中学校区ですけども、こちらは再編の対象校が橋本、学文路、清水という形で3つになっています。そういったこともありまして、予定しています学校をいろいろ改修したりとかもありますので、その辺の時間もかかるということで令和13年度という形になっています。紀見東中学校区の境原小と城山小につきましては、災害対応ということで対策工事をする予定があります。そういったこともありまして、プラスここの人数とかも考えまして、令和14年度という形で延びているところです。

10-2. 一番何の問題もなくやりやすかったのはやっぱり恋野小と隅田小の統廃合やという、そういう雰囲気がありますね。

(教育委員会)

今の人数の現状とか考えると、その元の基本方針のとおり進めていくのが一番よいのではないかという形で考えております。

11-1. 今の問題等なんですけども、境原小学校と城山小学校が一緒になるという、これは災害を防止のためという私の認識があるんですけど、それなのになんで14年度まで延び

るんですか。早い方がいいんと違いますか。

(教育委員会)

もともと令和9年度という形で計画をしておったんですけども、境原小学校の東側の斜面、北側の斜面と2方向に土砂災害特別警戒区域というのがあります。当初その対策をしないという前提で考えておったんですけども、市の方で再検討しまして、東側の斜面については対策工事をしていく計画を立てています。北の斜面については、大雨の場合には、大きな心配は少ないんじゃないかというような状況になりますんで、東側の対策をすることで、一定の安心を確保できるという形を考えています。そのために、年度を延ばして令和14年度には持っていくという形になっています。

11-2. 対策したら、せんでもええんちゃうん。あそこは紀ノ光台の方来てますよね。紀ノ光台は今のところ微増してるでしょう。それは全体の人数の関係ですか。

(教育委員会)

確かに対策工事をするんですけども、最終的に警戒区域は残っていきまして、2方向に区域があるということで、より心配の少ないところに最終的に行っていただくということで、城山小との再編を考えておるところです。

11-3. ごめんなさい。まだ納得いかんねんけど。今世間で言われてる、いつ地震が起こるかわからんという時期に、えっていう思いがあるんですけども、どうですか。

(教育委員会)

確かに、南海トラフのような想定もできないような地震が起きる可能性も言われております。建物自体は耐震の対策をしておりますし、普段から、地震に備えた避難訓練をしているような状況もありますので、そういったことの対策もしながら、工事をするわけなんですけども、最終的に警戒区域が残るということで、より安心なところに最終的に行っていただくということで、このような計画をしているところです。

10-4. ほんだら地震に対する耐震等級は3になると思うんですけど、小学校とか消防署はね。それ取れて、なおかつそこへ多額の資金つぎ込んで、なおかつ14年度に統合するんですか。

(教育委員会)

一定の対策ということで、東側斜面に土砂が崩れてきたときを想定して壁をつくるという対策をするんですけども、それを作る方法でいけるんですけど、100%それやるだけで安全ですよという、2方向にあったら拭い切れないところがありますので、再編方針そのものは残していくという考え方でおります。

10-5. 住民との話し合いもあると思うんですけども、そこへ突っ込んでいく資金、無駄

じゃないんですか。

(教育委員会)

それは無駄にはならないと考えてます。学校を維持していく上では、少しでも安全な対策を施すべきだと考えてますので、無駄とは考えておりません。

10-6. 対策を施して大丈夫になるなら、14年度に別に統廃合せんでもええん違いませんか。

(教育委員会)

それで100%子供たちが安全ですよと、言い切れないところも我々としてあるんですよ。危険なところですよという、いわゆる網がかかっている状態ですので、壁の対策をさせてもらう予定なんですけども、2方向ある特殊事情を考えた場合に、絶対いけますよというところは言い切れないところありますので、方針から外せないというのが現状でございます。

10-7. もうこれ以上やめますけど、これやったら14年度から、13年度、12年度より前に持ってくるべきで、14年度を目指す必要がどこにあんのかなというのが意見です。

11-1. 境原小学校は14年度まで延ばすということになって、工事もしますということをおっしゃっておられましたけども、そしたら結局14年度のところでは、今の城山小学校に統廃合で1つにしますという、そういう考えですか。

(教育委員会)

今の予定ですが再編後の場所を考えてるのは、城山小学校を考えております。

11-2. でき上がりましたから、これで安心になったから、じゃあ境原小と城山小の2つ置いときますという、そういう方向は出てこないってということなんですか。

(教育委員会)

先ほどから申し上げておりますように、どうしても2方向の区域があるということで、より安心なところということで城山小学校を考えておるところです。

11-3. なるほど。ありがとうございます。そうしましたら、紀見北中学校区については、これ11年度のままで変更なしになっていますが、これも1つにしてしまう予定ということですか。例えば、三石小にとそういうようなことを考えていらっしゃるんですか。

(教育委員会)

紀見北中学校区の柱本小、三石小につきましても、子供の数の状況とか見まして11年度に再編をしていく予定をしております。

1 1－4. 大体どこにっていう予定も決まっているっていうことなんですか。

(教育委員会)

予定としましたら三石小学校と考えているところです。

1 2. ちょっと僕も疑問に思ったので1点確認させていただきたいんですけども、もともと令和14年度に統廃合の予定が、両斜面が危ないと、危険なので対策が必要なので早急に崩れる、崩れそうな東側でしたっけ、東側の斜面は予算を使って補修する。ただ、北側の斜面は危険性というのは、考えるとゼロではないってことですよね。であるから、当初14年のを早めて9年にするというんだったら理解できるんです。延びたっていうのは、これはどういう意味なのかを知りたいんです。北側危険度が0%ではないのに、延びた理由はどうして延びたのかをちょっとお聞きしたいです。それをやっぱ、若い方からなんでと聞かれたときに、それに対して答えを持って帰りたいので、そこだけちょっとお聞かせ願えますか。

(教育委員会)

ありがとうございます。ちょっと繰り返しの部分があるんですけど、当初やはり境原小と城山小の再編のときに、境原小には、災害対策をしないという前提で昨年、説明に入ったんです。当然、警報とか大雨が出てる時は学校止めるんですけど、やはりそういった網がかかった状態で、学校運営を続けるのは、やはり私たちも怖いところがありますので、対策をしない前提であれば、安全な城山小の方に行ってくださいということで9年という形で説明に入ったんです。ところが、やはり皆さんの相当なご意見をいただいたので、持ち帰らせていただいて、教育委員会の中で、もう本当にいろんな話をして、市長に災害対策してくださいと申し入れたわけなんです。そこで方針転換を市として打つことになって、片方の斜面になるんですけども、東側斜面につきましては、崩れてくる可能性を止める擁壁をすることによって、一定の安全を確保したい。そこで、警報のときは学校はしませんけども、そういうことによって、学校は一定の安全が確保される。ただ、北側については、一定の離隔距離が離れているというところがあるのと、建物自体が岩盤の上に建てられているというのがありまして、そういったところ、大雨につきましては、一定の危険性は抑えるであろうという判断もあって学校運営の期間を延ばす形にしました。ただ、大雨ということになったらそういう考え方になるんですけど、もし、巨大地震の想定をした場合に、やはり2か所残っているところを片側だけやっただけで、やっぱ安全ですよと、やっぱ子供を預かる市としては、ぬぐい切れないところがあるので2期方針の最後の方になるんですけど14年という形で、今のところ目標値を設定しているところでございます。絶対安全ですよ、安全な形の擁壁を作るんですけど、それだけやったからいいじゃないかという解釈を自分たちもようせんかったので、再編方針から外すということは考えませんでした。

説明会に出席していただいた地域の皆様から意見書に記入いただいた意見、並びに欠席された方から提出いただいた意見の内容です。

13. (二次元コード)

恋野小学校の自転車クラブはどうなりますか？